

第 1 4 7 回

取引先企業景気動向調査

〔平成26年 10-12月 実績〕
〔平成27年 1- 3月 見通し〕

瀬戸信用金庫

総合企画部

調査概要

1. 調査期間 平成26年10～12月を対象に12月上旬に実施した。
2. 調査対象先 瀬戸・尾張旭地区は11業種175社。（うち陶磁器製造業88社）
名古屋地区は7業種137社。（下表）
3. 調査方法 当金庫の営業店担当者による面接聞き取り調査。
4. 分析方法 各質問事項につき、増加（上昇）したとする企業割合と減少（下降）したとする企業割合の差（DI）を中心にして分析した。
なお、珪砂製造業、和飲食器卸売業、電設資材卸売業、建築・土木・生コン製造業、螺子製造業は陶磁器製造業の集計には含めていない。

《瀬戸・尾張旭地区》					《名古屋地区》				
業種		対象企業	有効回答	比率%	業種		対象企業	有効回答	比率%
陶磁器製造業	ノベルティ	17	17	100.0	製造業	繊維製品	11	11	100.0
	洋飲食器	9	9	100.0		機械部品	37	37	100.0
	タイル	8	8	100.0		紙加工品	15	15	100.0
	電磁器	20	20	100.0	卸売業	鋼材伸銅	21	21	100.0
	ファインセラミックス	14	14	100.0		建築材料	16	16	100.0
	和飲食器	20	20	100.0		家具文具	9	9	100.0
陶磁器製造業計	88	88	100.0	— — —		—	—	—	
珪砂製造業	11	11	100.0	— — —		—	—	—	
その他5業種	和飲食器卸売業	24	24	100.0	— — —	—	—	—	
	電設資材卸売業	18	18	100.0	— — —	—	—	—	
	建築・土木・生コン製造業	17	17	100.0	— — —	—	—	—	
	螺子製造業	17	17	100.0	— — —	—	—	—	
	その他5業種計	87	87	100.0	建設業	28	28	100.0	
瀬戸・尾張旭地区合計		175	175	100.0	名古屋地区合計		137	137	100.0
合計		対象企業数	312 社	有効回答数	312 社	回答率	100.0%		

判断指数：（DI）とは、業況・受注・売上・収益の増加企業割合から減少企業割合を引いた数値で、どちらの割合が多いかを比べて、景気がどの方向に向きつつあるかをみる方法である。

（例）前回に比べて売上が増加した企業割合40%、変わらなかった企業割合50%、減少した企業割合10%の場合、判断指数は40－10＝30となる。

判断指数がプラスのとき → 景気上向き

判断指数が0のとき → 景気横ばい

判断指数がマイナスのとき → 景気下向きと読み取る。

< 瀬戸・尾張旭地区 >

1. 今回調査の景況（10～12月）

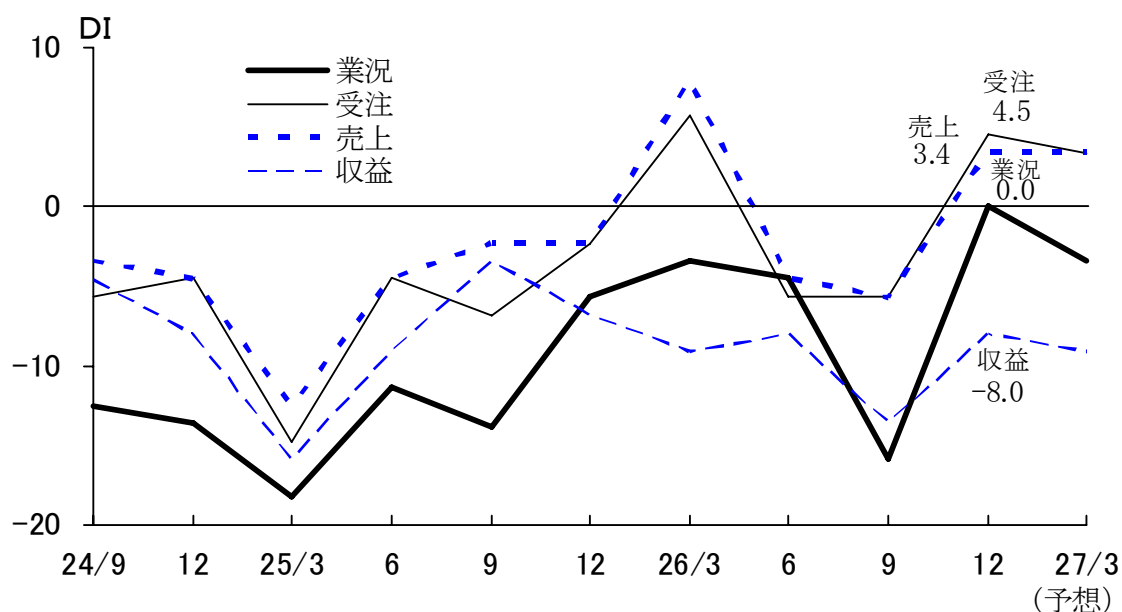
初めてDIがマイナスを脱した

瀬戸・尾張旭地区の陶磁器製造業取引先企業（有効回答企業 88 社）の 10～12 月（聞き取りによる前回調査 7～9 月との対比）の業況についてみると、業況判断DIは 0.0 となり、前回実績（ $\Delta 15.9$ ）比 15.9 ポイントの改善となった。

当地区陶磁器製造業においては、需要の低迷は続いているものの、年末需要期で季節商品に動きがみられ、平成 18 年に業況判断DIの調査を開始して以来、初めてマイナスを脱した。

業種別の業況判断DIをみると、ノベルティ・タイル・ファインセラミックスは好転、和飲食器は改善、電磁器は横ばい、洋飲食器は悪化した。

◎ 陶磁器製造業の業況・受注・売上・収益DI推移（前回調査比）



2. 来期の見通し（1～3月）

3.4ポイント悪化予想

陶磁器製造業全体での予想業況判断DIは $\Delta 3.4$ となり、今回実績（0.0）比 3.4 ポイントの悪化予想となった。

業種別の業況判断DIでは、ノベルティ・タイル・ファインセラミックスは弱含みで推移、電磁器・和飲食器は改善、洋飲食器は悪化する見通し。

◎陶磁器製造業のD I 推移

指標		「増加－減少」企業割合(DI)										
		H24		H25				H26				H27.1-3
		7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	(予想)
前回調査比	業況											
		-12.6	-13.6	-18.2	-11.4	-13.8	-5.7	-3.4	-4.5	-15.9	0.0 (-9.1)	(-3.4)
	受注額	-5.7	-4.5	-14.8	-4.5	-6.9	-2.3	5.7	-5.7	-5.7	4.5 (0.0)	(3.4)
	売上額	-3.4	-4.5	-12.5	-4.5	-2.3	-2.3	8.0	-4.5	-5.7	3.4 (1.1)	(3.4)
	売上数量	-1.1	-3.4	-14.8	-6.8	-3.4	-2.3	2.3	-6.8	-8.0	1.1 (-2.3)	(-2.3)
	販売単価	2.3	-3.4	0.0	-3.4	0.0	-1.1	-1.1	3.4	9.1	1.1 (4.5)	(2.3)
	仕入価格	11.5	11.4	14.8	13.6	13.8	18.2	15.9	23.9	20.5	13.6 (17.0)	(4.5)
	製品在庫	3.4	2.3	1.1	-1.1	2.3	-1.1	0.0	5.7	2.3	0.0 (1.1)	(-2.3)
	原材料在庫	3.4	2.3	0.0	0.0	2.3	1.1	1.1	2.3	2.3	-1.1 (1.1)	(-1.1)
	収益	-4.6	-8.0	-15.9	-9.1	-3.4	-6.8	-9.1	-8.0	-13.6	-8.0 (-8.0)	(-9.1)
資金繰り	-10.3	-11.4	-10.2	-10.2	-9.2	-11.4	-9.1	-17.0	-10.2	-6.8 (-12.5)	(-5.7)	
前年同期比	売上額	2.3	-4.5	-6.8	2.3	-3.4	-4.5	8.0	-2.3	-8.0	-2.3	
	収益	2.3	-4.5	-9.1	-2.3	-9.2	-10.2	-4.5	-5.7	-10.2	-5.7	
設備投資実施割合(%)		4.6	3.4	2.3	3.4	4.6	3.4	5.7	6.8	4.5 (3.4)	(2.3)	
平均受注残		9月末 1.5ヶ月	12月末 1.5ヶ月	3月末 1.4ヶ月	6月末 1.5ヶ月	9月末 1.4ヶ月	12月末 1.4ヶ月	3月末 1.5ヶ月	6月末 1.7ヶ月	9月末 1.7ヶ月	12月末 1.7ヶ月	

注. () 内は前期に予想した割合を示す。

景況天気図



陶磁器製造業

<ノベルティ>

1. 景況

業況判断D Iは23.5、前回(△5.9)に比べ29.4ポイント改善した。季節商品である干支や雛人形の受注が増加したほか、取引開始によるキャラクター商品の増加もあり、受注・売上・収益ともに堅調に推移した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは11.8、今期実績比11.7ポイント悪化の見込み。引き続き雛人形やキャラクター商品の受注増加を見込む企業があるものの、季節商品は落ち着きつつあり、受注・売上・収益は弱含みで推移する見込み。

	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	29.4	5.9	64.7	23.5	29.4		11.8	0.0	88.2	11.8	△11.7
受注	35.3	0.0	64.7	35.3	35.3		11.8	0.0	88.2	11.8	△23.5
売上	35.3	0.0	64.7	35.3	29.4	23.5	11.8	0.0	88.2	11.8	△23.5
収益	23.5	5.9	70.6	17.6	23.5	11.8	5.9	5.9	88.2	0.0	△17.6

<洋飲食器>

1. 景況

業況判断D Iは△44.4、前回(△33.3)に比べ11.1ポイント悪化した。主要取引先から一定の受注を確保している企業もあるが、原材料・燃料費の高騰の影響を受けた企業もあり、受注・売上は横ばい、収益は悪化した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは△55.6、今期実績比11.2ポイント悪化する見込み。消費増税後の冷え込みが続くとみる企業があり、受注・売上は悪化、収益は横ばいで推移する見込み。

	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	0.0	44.4	55.6	△44.4	△11.1		0.0	55.6	44.4	△55.6	△11.2
受注	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		0.0	11.1	88.9	△11.1	△11.1
売上	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	△11.1	0.0	11.1	88.9	△11.1	△11.1
収益	0.0	11.1	88.9	△11.1	△11.1	0.0	0.0	11.1	88.9	△11.1	0.0

<タイル>

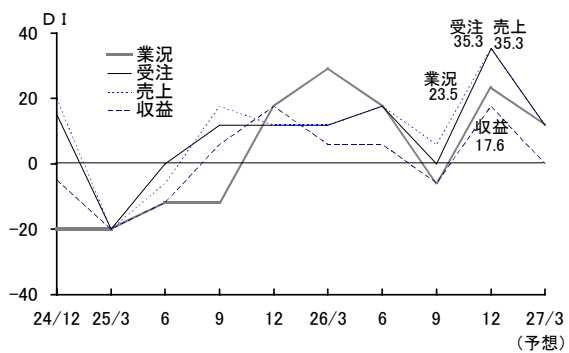
1. 景況

業況判断D Iは12.5、前回(0.0)に比べ12.5ポイント改善した。ハウスメーカーからの受注が増加した企業があるが、前期の大型受注の反動減や、消費税増税の影響により受注が減少している企業もあり、受注・売上・収益はともに悪化した。

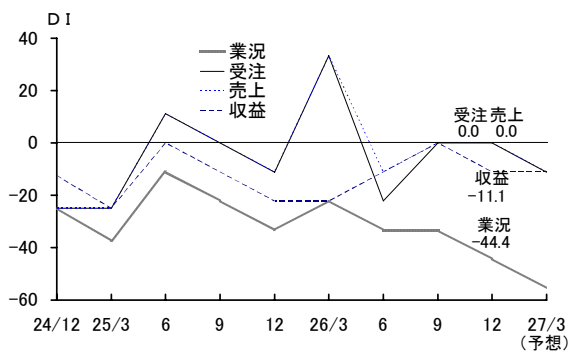
2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは0.0、今期実績比12.5ポイント悪化する見込み。引き続き消費税増税の影響で受注減少を見込む企業があるものの、工場の稼働状況や不良品率の改善により売上増加を図る企業もあり、受注・売上は改善、収益は横ばいで推移する見込み。

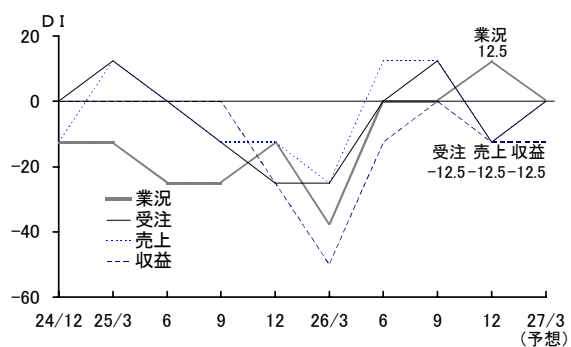
	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	25.0	12.5	62.5	12.5	12.5		12.5	12.5	75.0	0.0	△12.5
受注	12.5	25.0	62.5	△12.5	△25.0		12.5	12.5	75.0	0.0	12.5
売上	12.5	25.0	62.5	△12.5	△25.0	37.5	12.5	12.5	75.0	0.0	12.5
収益	12.5	25.0	62.5	△12.5	△12.5	37.5	12.5	25.0	62.5	△12.5	0.0



時期	前期 平成26年 7~9月	当期 平成26年 10~12月	来期見通し 平成27年 1~3月
業種	ノベルティ	ノベルティ	ノベルティ
天候	曇り	晴	晴れ時々曇り



業種	洋飲食器	洋飲食器	洋飲食器
天候	雨	雨	雨



業種	タイル	タイル	タイル
天候	曇り	晴れ時々曇り	曇り

＜電磁器＞

1. 景況

業況判断D Iは△15.0、前回（△15.0）と変わらず横ばいで推移した。電力会社からの受注が不透明なことや、取引先の在庫調整により受注が減少した企業があるものの、販売単価の引上げにより売上が改善した企業もあり、受注・収益は横ばい、売上は改善した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは△10.0、今期実績比 5.0 ポイント改善の見込み。電力会社からの受注は不透明さが続くとみられるが、販売単価の引上げにより受注額の増加を見込む企業もあり、受注・売上・収益は改善する見込み。

	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	0.0	15.0	85.0	△15.0	0.0		0.0	10.0	90.0	△10.0	5.0
受注	5.0	15.0	80.0	△10.0	0.0		5.0	5.0	90.0	0.0	10.0
売上	0.0	10.0	90.0	△10.0	5.0	△20.0	0.0	0.0	100.0	0.0	10.0
収益	0.0	20.0	80.0	△20.0	0.0	△25.0	0.0	15.0	85.0	△15.0	5.0

＜ファインセラミックス＞

1. 景況

業況判断D Iは28.6、前回（0.0）に比べ28.6ポイント改善した。主要取引先からの受注が増加した企業があり、受注・売上・収益はともに好転した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは21.4、今期実績比 7.2 ポイント悪化の見込み。取引先からの受注増加や、触媒関係の受注増加を見込む企業もあり、受注・売上は堅調に推移し、収益は横ばいの見込み。

	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	28.6	0.0	71.4	28.6	28.6		21.4	0.0	78.6	21.4	△7.2
受注	7.1	0.0	92.9	7.1	7.1		14.3	0.0	85.7	14.3	7.2
売上	7.1	0.0	92.9	7.1	14.2	14.3	14.3	0.0	85.7	14.3	7.2
収益	7.1	0.0	92.9	7.1	7.1	7.1	7.1	0.0	92.9	7.1	0.0

＜和飲食器＞

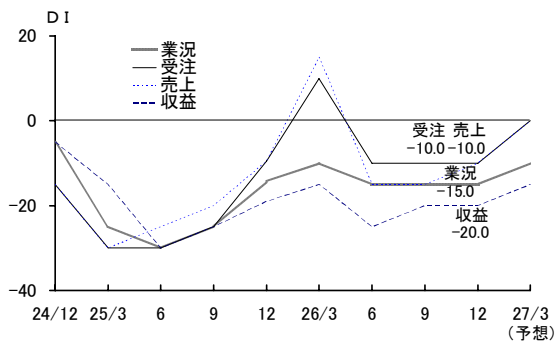
1. 景況

業況判断D Iは△10.0、前回（△35.0）に比べ25.0ポイント改善した。取引先の不振により受注減少が続いている企業があるが、寺院の行事用食器の受注により売上が増加した企業もあり、受注・売上・収益はいずれも改善した。

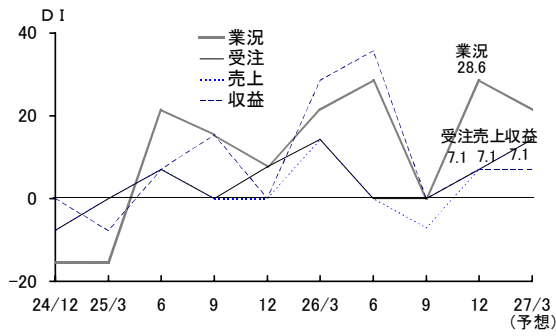
2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは△5.0、今期実績比 5.0 ポイント改善する見込み。市場の低迷は続くと見られるものの、冬物の季節商品により売上増加を見込む企業があり、受注は横ばい、売上・収益は改善する見込み。

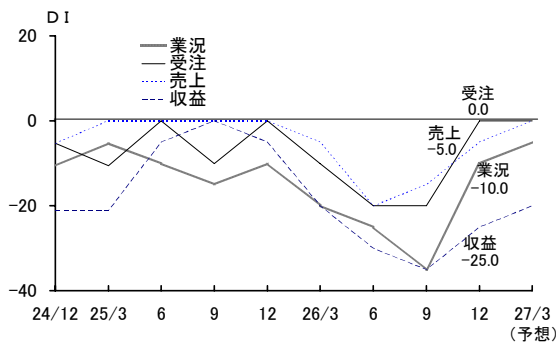
	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	0.0	10.0	90.0	△10.0	25.0		5.0	10.0	85.0	△5.0	5.0
受注	5.0	5.0	90.0	0.0	20.0		5.0	5.0	90.0	0.0	0.0
売上	0.0	5.0	95.0	△5.0	10.0	△30.0	10.0	10.0	80.0	0.0	5.0
収益	0.0	25.0	75.0	△25.0	10.0	△30.0	0.0	20.0	80.0	△20.0	5.0



時期	前期 平成26年 7~9月	当期 平成26年 10~12月	来期見通し 平成27年 1~3月
業種			
電磁器			



ファインセラミックス			
------------	--	--	--



和飲食器			
------	--	--	--

その他

<珪砂製造業>

1. 景況

業況判断D Iは9.1、前回(18.2)に比べ9.1ポイント悪化した。受注が好調で、売上を大きく伸ばした企業もあり、受注・売上は好転、収益は円安の影響により仕入れ価格が上昇したこともあり、横ばいで推移した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは9.1、今期実績比変わらず横ばいで推移する見込み。取引先の機械修理による生産ストップの影響で受注減少となる企業がある一方、新規取引先獲得により受注増加を見込む企業もあり、受注・売上・収益は横ばいで推移する見込み。

	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	18.2	9.1	72.7	9.1	△9.1		27.3	18.2	54.5	9.1	0.0
受注	9.1	0.0	90.9	9.1	9.1		18.2	9.1	72.7	9.1	0.0
売上	9.1	0.0	90.9	9.1	18.2	18.2	18.2	9.1	72.7	9.1	0.0
収益	9.1	9.1	81.8	0.0	0.0	△18.2	9.1	9.1	81.8	0.0	0.0

<和飲食器卸売業>

1. 景況

業況判断D Iは△4.2、前回(△4.2)と変わらず横ばいで推移した。季節商品の受注増加やイベントへの出展により売上が増加した企業や、取引先の合併による販売エリア拡大で受注増加となった企業もあり、売上・収益はともに改善した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは0.0、今期実績比4.2ポイント改善の見込み。引き続き取引先の合併による販売エリア拡大で受注増加を見込む企業や、冬物商品の受注増加を見込む企業があるものの、干支等の販売が終了した企業もあり、売上は弱含み、収益は横ばいで推移する見込み。

	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	0.0	4.2	95.8	△4.2	0.0		0.0	0.0	100.0	0.0	4.2
売上	16.7	0.0	83.3	16.7	20.9	△4.2	8.3	4.2	87.5	4.2	△12.5
収益	8.3	8.3	83.3	0.0	16.7	△16.7	4.2	4.2	91.7	0.0	0.0

<電設資材卸売業>

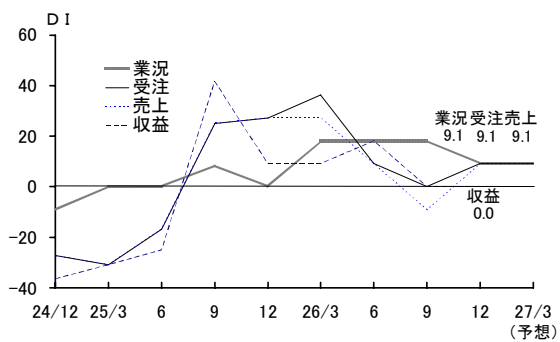
1. 景況

業況判断D Iは0.0、前回(△5.6)に比べ5.6ポイント改善した。季節商品であるイルミネーションの受注が増加した企業や、主要取引先からの受注で増加となった企業があり、売上・収益はともに改善した。

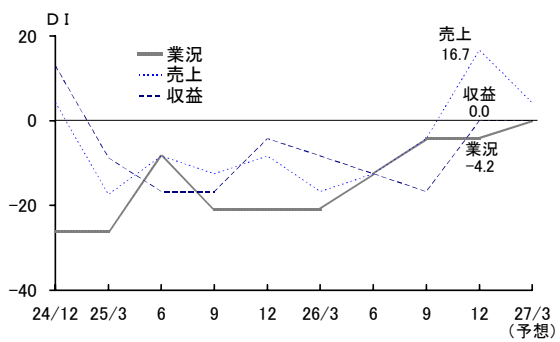
2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは5.6、今期実績比5.6ポイント改善する見込み。工場を増産態勢に切り替えて受注増加に対応する企業もあるが、季節商品であるイルミネーションの売上増加の反動減を見込む企業もあり、売上・収益は弱含みで推移する見込み。

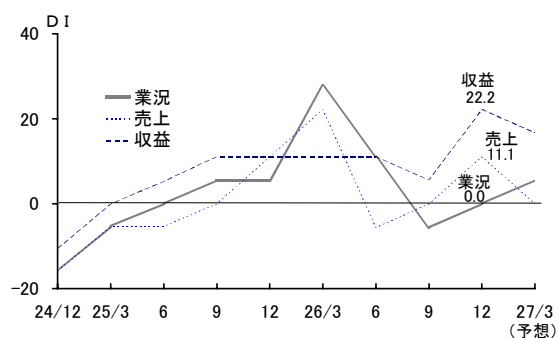
	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	5.6	5.6	88.9	0.0	5.6		5.6	0.0	94.4	5.6	5.6
売上	11.1	0.0	88.9	11.1	11.1	0.0	5.6	5.6	88.9	0.0	△11.1
収益	22.2	0.0	77.8	22.2	16.6	5.6	22.2	5.6	72.2	16.7	△5.5



時期	前期 平成26年 7~9月	当期 平成26年 10~12月	来期見通し 平成27年 1~3月
業種			
珪砂製造業			



和飲食器 卸売業			
-------------	--	--	--



電設資材 卸売業			
-------------	--	--	--

〈建築・土木・生コン製造業〉

1. 景況

業況判断D Iは5.9、前回(11.8)に比べ5.9ポイント悪化した。公共工事の受注が増加した企業もあるが、一般住宅の新築工事が減少した企業もあり、受注は改善、売上・収益は悪化した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは11.8、今期実績比5.9ポイント改善の見込み。年度末に向けて公共工事の増加を見込む企業が複数あるほか、個人住宅の受注を見込む企業もあり、受注・売上・収益はともに改善する見込み。

	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	11.8	5.9	82.4	5.9	△5.9		11.8	0.0	88.2	11.8	5.9
受注	17.6	5.9	76.5	11.8	5.9		23.5	0.0	76.5	23.5	11.7
売上	11.8	0.0	88.2	11.8	△5.8	11.8	23.5	0.0	76.5	23.5	11.7
収益	5.9	5.9	88.2	0.0	△5.9	5.9	17.6	0.0	82.4	17.6	17.6

〈螺子製造業〉

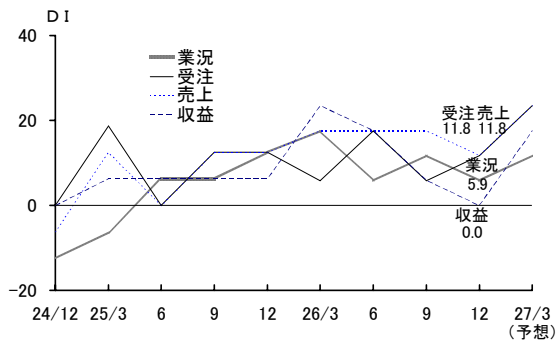
1. 景況

業況判断D Iは0.0、前回(0.0)と変わらず横ばいで推移した。販売先からの値下げ要請により売上が減少した企業もあるが、自動車生産台数の増加に伴い受注が増加した企業もあり、受注・売上は横ばいで推移、収益は好転した。

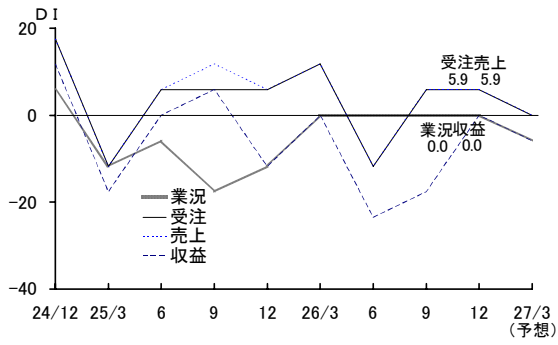
2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは△5.9、今期実績比5.9ポイント悪化する見込み。設備投資による受注増加を見込む企業もあるが、販売先からの値下げ要請で売上減少を見込む企業もあり、受注・売上・収益は悪化する見込み。

	26年10-12月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年1-3月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	5.9	5.9	88.2	0.0	0.0		0.0	5.9	94.1	△5.9	△5.9
受注	11.8	5.9	82.4	5.9	0.0		5.9	5.9	88.2	0.0	△5.9
売上	11.8	5.9	82.4	5.9	0.0	△5.9	5.9	5.9	88.2	0.0	△5.9
収益	11.8	11.8	76.5	0.0	17.6	△5.9	5.9	11.8	82.4	△5.9	△5.9



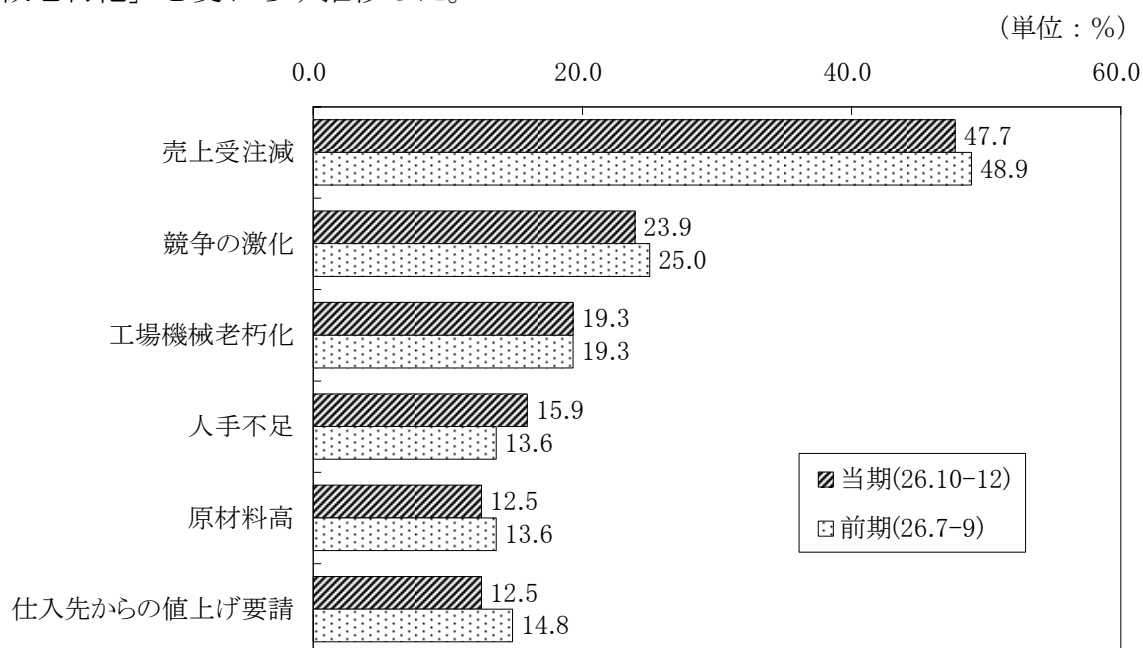
時期	前期 平成26年 7～9月	当期 平成26年 10～12月	来期見通し 平成27年 1～3月
業種			
建築・土木 生コン 製造業			



螺子製造業			
-------	--	--	--

経営上の問題点上位5項目（陶磁器製造業）

今回調査では、1位「売上・受注の停滞・減少」、2位「競争の激化」、3位「工場機械老朽化」と変わらず推移した。



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目回答

設備投資の動き（陶磁器製造業）

今回調査では、設備投資の実績は4.5%で、前期実績比横ばいで推移した。来期（今後3か月以内）は2.3%で、当期実績を2.2ポイント下回って推移する予想となった。

(単位：%)

	前期 26年7-9月期	当期 26年10-12月期	来期 27年1-3月期
実施あり	4.5	4.5	2.3
土地	0.0	0.0	0.0
建物	0.0	25.0	0.0
機械の新設	50.0	25.0	50.0
機械の更改	25.0	25.0	50.0
その他	50.0	25.0	0.0
実施なし	95.5	95.5	97.7

平成27年の経営見通し

特別調査として「平成27年の経営見通し」について、瀬戸・尾張旭地区の11業種175社（うち陶磁器製造業88社）、名古屋地区の7業種137社を対象に、調査を実施しました。結果は以下のとおりです。

なお、全国、愛知県は、信金中央金庫の調査によるもので、調査先は全国15,906先、愛知県734先の結果です。

1. 自社の業況見通し

(単位:%)

		良い				普通	悪い				DI (A)-(B)
		(A)	非常に良い	良い	やや良い		(B)	やや悪い	悪い	非常に悪い	
ノベルティ	ノベルティ	0.0	0.0	0.0	0.0	76.5	23.5	17.6	5.9	0.0	△23.5
	洋飲食器	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	55.6	55.6	0.0	0.0	△55.6
	タイル	12.5	0.0	0.0	12.5	50.0	37.5	25.0	12.5	0.0	△25.0
	電磁器	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	30.0	25.0	5.0	0.0	△30.0
	ファインセラミックス	21.4	0.0	0.0	21.4	57.1	21.4	14.3	7.1	0.0	0.0
	和飲食器	10.0	0.0	0.0	10.0	30.0	60.0	45.0	15.0	0.0	△50.0
陶磁器製造業計	平成27年	6.8	0.0	0.0	6.8	55.7	37.5	29.5	8.0	0.0	△30.7
	平成26年	13.6	0.0	4.5	9.1	55.7	30.7	18.2	12.5	0.0	△17.0
珪砂	珪砂	18.2	0.0	9.1	9.1	54.5	27.3	27.3	0.0	0.0	△9.1
	和飲食器卸売	0.0	0.0	0.0	0.0	58.3	41.7	33.3	8.3	0.0	△41.7
	電設資材卸売	16.7	0.0	0.0	16.7	66.7	16.7	11.1	5.6	0.0	0.0
	建築・土木・生コン	5.9	0.0	0.0	5.9	64.7	29.4	17.6	11.8	0.0	△23.5
	螺子	17.6	0.0	5.9	11.8	58.8	23.5	17.6	5.9	0.0	△5.9
その他業種計	10.3	0.0	2.3	8.0	60.9	28.7	21.8	6.9	0.0	△18.4	
瀬戸・尾張旭地区取引先計		8.6	0.0	1.1	7.4	58.3	33.1	25.7	7.4	0.0	△24.6
名古屋地区取引先計		16.1	0.0	0.7	15.3	52.6	31.4	24.1	5.8	1.5	△15.3
当金庫取引先計	平成27年	11.9	0.0	1.0	10.9	55.8	32.4	25.0	6.7	0.6	△20.5
	平成26年	21.8	0.6	3.2	17.9	52.9	25.3	20.2	5.1	0.0	△3.5
全国	平成27年	15.3	0.2	2.3	12.7	44.9	39.9	30.4	8.1	1.4	△24.6
	平成26年	21.7	0.4	2.8	18.5	46.8	31.5	24.0	6.5	1.0	△9.8
愛知	平成27年	16.8	0.3	2.3	14.2	43.9	39.3	29.5	8.1	1.6	△22.4
	平成26年	24.2	0.8	3.2	20.2	44.5	31.3	24.5	6.0	0.8	△7.1

<当金庫>

平成27年の自社の業況見通しについては、「良い」が11.9%、「悪い」が32.4%で、DI（「良い（A）-悪い（B）」）は△20.5となり1年前の調査に比べ17.0ポイントの悪化する見通しとなった。

瀬戸・尾張旭地区取引先DIは△24.6で1年前の調査（△11.5）に比べ13.1ポイント悪化、名古屋地区取引先DIは△15.3で1年前の調査（6.5）に比べ21.8ポイント悪化した。名古屋地区取引先DIは、現在の調査手法を開始した平成20年の見通し以来、初めてプラスの見通しに転じた1年前の調査から再びマイナスの見通しとなった。

また、全国、愛知県ともにマイナスの中で回復しつつあったものの、1年前の調査に比べDIは悪化見通しとなった。

<陶磁器製造業>

陶磁器製造業は「良い」が6.8%、「悪い」が37.5%となり、DIは△30.7で1年前の調査に比べ13.7ポイント悪化する見通しとなった。

業種別では、1年前の調査と比べてDIはタイル・和飲食器で横ばい、ノベルティ・洋飲食器・電磁器・ファインセラミックスは悪化と、全ての業種で低調に推移する見通しとなった。その他業種においては、螺子製造業は自動車産業の好調により1年前より改善見通しとなっている。

2. 自社の売上額伸び率の見通し

(単位:%)

		増加				変化なし	減少				DI (A)-(B)		
		(A)	30%以上	20~29%	10~19%		10%未満	(B)	10%未満	10~19%		20~29%	30%以上
	ノベルティ	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	88.2	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	洋飲食器	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
	タイル	37.5	0.0	0.0	12.5	25.0	25.0	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	電磁器	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	△10.0
	ファインセラミックス	28.6	0.0	7.1	7.1	14.3	50.0	21.4	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1
	和飲食器	15.0	0.0	0.0	0.0	15.0	40.0	45.0	40.0	5.0	0.0	0.0	△30.0
陶磁器製造業計	平成27年	13.6	0.0	1.1	2.3	10.2	65.9	20.5	18.2	2.3	0.0	0.0	△6.9
	平成26年	26.1	2.3	1.1	6.8	15.9	54.5	19.3	12.5	5.7	1.1	0.0	6.8
	珪砂	27.3	0.0	0.0	18.2	9.1	54.5	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1
	和飲食器卸売	12.5	0.0	0.0	4.2	8.3	58.3	29.2	29.2	0.0	0.0	0.0	△16.7
	電設資材卸売	16.7	0.0	0.0	5.6	11.1	72.2	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	5.6
	建築・土木・生コン	17.6	0.0	0.0	5.9	11.8	58.8	23.5	23.5	0.0	0.0	0.0	△5.9
	螺子	23.5	0.0	0.0	5.9	17.6	58.8	17.6	11.8	5.9	0.0	0.0	5.9
	その他業種計	18.4	0.0	0.0	6.9	11.5	60.9	20.7	18.4	2.3	0.0	0.0	△2.3
	瀬戸・尾張旭地区取引先計	16.0	0.0	0.6	4.6	10.9	63.4	20.6	18.3	2.3	0.0	0.0	△4.6
	名古屋地区取引先計	27.7	0.0	0.7	8.8	18.2	47.4	24.8	16.8	6.6	0.7	0.7	2.9
当金庫取引先計	平成27年	21.2	0.0	0.6	6.4	14.1	56.4	22.4	17.6	4.2	0.3	0.3	△1.3
	平成26年	35.6	0.6	1.0	8.3	25.6	48.1	16.3	11.9	3.8	0.3	0.3	19.2
全国	平成27年	27.9	0.7	1.5	6.6	19.2	42.3	29.8	21.6	5.8	1.4	0.9	△1.8
	平成26年	34.3	1.0	1.8	8.8	22.8	41.7	24.0	17.2	4.9	1.1	0.8	10.3
愛知	平成27年	29.0	0.7	1.2	6.7	20.4	40.6	30.5	21.0	6.0	2.2	1.2	△1.5
	平成26年	36.1	0.7	1.5	9.8	24.0	39.1	24.8	17.2	6.4	0.7	0.6	11.2

<当金庫>

平成27年の自社の売上額伸び率の見通しについては、「増加」が21.2%、「減少」が22.4%で、DI（「増加(A)－減少(B)」）は△1.3となり、1年前の調査と比べ20.5ポイントの悪化見通しとなった。業況が悪化する見通しとなった前項の結果を受け、自社の売上額伸び率についても期待感は薄く、DIはマイナスの見通しとなった。

瀬戸・尾張旭地区取引先DIは△4.6（1年前の調査9.2）、名古屋地区取引先DIは2.9（1年前の調査31.9）で、共に1年前の調査に比べて悪化見通しとなり、DIは瀬戸・尾張旭地区取引先はマイナスに、名古屋地区取引先はプラス幅が小さくなっている。

全国、愛知県ともに1年前の調査に比べDIは悪化しており、プラスに転じたDIは再びマイナス見通しとなっている。

<陶磁器製造業>

陶磁器製造業は「増加」が13.6%、「減少」が20.5%で、DIは△6.9となり、1年前の調査(6.8)に比べ13.7ポイント悪化見通しとなった。

業種別のDIは、洋飲食器が好転、タイルが改善しているものの、洋飲食器・タイルを除く4業種では悪化している。特にファインセラミックスでは1年前の調査に比べ46.7ポイント悪化となり、DIはプラス水準を維持しているものの、大幅な悪化見通しとなった。

その他業種については、和飲食器卸売、螺子は横ばい、珪砂、電設資材卸売、建築・土木・生コンの3業種は悪化見通しとなった。

3. 自社の業況が上向く転換点

(単位:%)

		すでに上向いている	6か月以内	6か月以内の短期間で好転	1年後	2年後	3年後	3年超	1年以上の中長期間で好転	業況改善の見通しなし
洋飲食器	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	22.2	77.8	
タイル	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	
電磁器	0.0	10.0	10.0	0.0	5.0	10.0	25.0	40.0	50.0	
ファインセラミックス	28.6	7.1	35.7	0.0	14.3	14.3	28.6	57.1	7.1	
和飲食器	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	20.0	0.0	35.0	65.0	
陶磁器製造業計	平成27年	8.0	4.5	12.5	1.1	8.0	13.6	17.0	39.8	47.7
	平成26年	4.5	9.1	13.6	11.4	8.0	10.2	19.3	48.9	37.5
珪砂	27.3	18.2	45.5	18.2	0.0	0.0	0.0	18.2	36.4	
和飲食器卸売	8.3	4.2	12.5	8.3	4.2	0.0	33.3	45.8	41.7	
電設資材卸売	5.6	5.6	11.1	11.1	5.6	16.7	22.2	55.6	33.3	
建築・土木・生コン	5.9	11.8	17.6	11.8	11.8	23.5	17.6	64.7	17.6	
螺子	11.8	11.8	23.5	11.8	0.0	17.6	0.0	29.4	47.1	
その他業種計	10.3	9.2	19.5	11.5	4.6	11.5	17.2	44.8	35.6	
瀬戸・尾張旭地区取引先計	9.1	6.9	16.0	6.3	6.3	12.6	17.1	42.3	41.7	
名古屋地区取引先計	16.8	6.6	23.4	21.2	10.2	9.5	12.4	53.3	23.4	
当金庫取引先計	平成27年	12.5	6.7	19.2	12.8	8.0	11.2	15.1	47.1	33.7
	平成26年	12.8	10.3	23.1	15.1	9.9	8.3	13.8	47.1	29.8
全国	平成27年	14.1	8.9	23.0	14.6	10.7	9.9	10.2	45.4	31.6
	平成26年	14.2	9.7	23.9	16.4	11.0	11.2	9.7	48.3	27.9
愛知	平成27年	17.6	8.0	25.6	16.3	11.6	8.0	9.7	45.7	28.7
	平成26年	19.8	11.4	31.2	16.2	10.7	10.0	8.3	45.3	23.4

<当金庫>

自社の業況が上向く転換点については、「6か月以内の短期間で好転(「すでに上向いている」と「6か月以内」の合計)」の回答割合が19.2%となり、1年前の調査(23.1%)と比べ3.9ポイントの悪化となった。「1年以上の中長期間で好転」する企業は、昨年同様47.1%となっているが、内訳を見ると、「3年後」「3年超」の割合や「業況改善の見通しなし」の割合が1年前の調査と比較して高くなっており、業況が好転するには一層の時間がかかる見通しとなった。

地区別では、「6か月以内の短期間で好転」と「1年以上の中長期間で好転」の2つの項目の割合は、瀬戸・尾張旭地区取引先に比べ名古屋地区取引先の方が上回っており、短期間・中長期間を問わず業況改善を見込んでいる。なお、「業況改善の見通しなし」の回答割合は、名古屋地区取引先の23.4%に対し瀬戸・尾張旭地区取引先は41.7%となっており、地域により業況改善に違いがみられた。

<陶磁器製造業>

「6か月以内の短期間で好転」の回答割合は12.5%、「1年以上の中長期間で好転」の回答割合は39.8%となり、1年前の調査と比べてともに回答割合が低くなった。また、「業況改善の見通しなし」は47.7%と高い回答割合となった。

業種別では、タイルとファインセラミックスで「6か月以内の短期間で好転」の割合が比較的高くなっているが、洋飲食器・タイル・電磁器・和飲食器では5割以上の企業が「業況改善の見通しなし」と回答しており、業況の低迷が続く見通しとなっている。

4. 消費税の影響(8%時、10%時)

(単位:%)

	8%に上がった際の影響					10%に上がった場合の影響				
	悪影響で全く回復せず	悪影響で回復途中	悪影響で回復済み	あまり影響なし	好影響(駆け込み需要)	悪影響が長い期間	悪影響が一時的	あまり影響なし	むしろ好影響	わからない
ノベルティ	5.9	17.6	23.5	52.9	0.0	17.6	29.4	17.6	0.0	35.3
洋飲食器	0.0	44.4	44.4	11.1	0.0	11.1	77.8	0.0	0.0	11.1
タイル	25.0	12.5	12.5	37.5	12.5	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0
電磁器	10.0	10.0	5.0	65.0	10.0	20.0	15.0	45.0	0.0	20.0
ファインセラミクス	0.0	35.7	7.1	57.1	0.0	7.1	35.7	35.7	0.0	21.4
和飲食器	5.0	20.0	30.0	45.0	0.0	15.0	35.0	5.0	0.0	45.0
陶磁器製造業計	6.8	21.6	19.3	48.9	3.4	15.9	33.0	20.5	0.0	30.7
珪砂	0.0	9.1	0.0	90.9	0.0	0.0	18.2	72.7	0.0	9.1
和飲食器卸売	8.3	45.8	4.2	37.5	4.2	37.5	12.5	16.7	0.0	33.3
電設資材卸売	0.0	33.3	11.1	50.0	5.6	5.6	27.8	33.3	0.0	33.3
建築・土木・生コン	0.0	0.0	17.6	82.4	0.0	0.0	23.5	47.1	0.0	29.4
螺子	0.0	29.4	11.8	52.9	5.9	0.0	52.9	23.5	0.0	23.5
その他業種計	2.3	26.4	9.2	58.6	3.4	11.5	26.4	34.5	0.0	27.6
瀬戸・尾張旭地区取引先計	4.6	24.0	14.3	53.7	3.4	13.7	29.7	27.4	0.0	29.1
名古屋地区取引先計	13.1	18.2	16.1	43.8	8.8	19.7	44.5	18.2	2.2	15.3
当金庫取引先計	8.3	21.5	15.1	49.4	5.8	16.3	36.2	23.4	1.0	23.1
全国	15.8	25.4	11.1	41.3	6.5	27.1	38.6	18.0	0.8	15.5
愛知	13.0	23.4	9.8	45.0	8.7	25.5	36.0	22.9	0.7	14.9

<当金庫>

平成26年4月に消費税が8%に上がった際の影響については、「悪影響を受けて今も全く回復していない(8.3%)」、「悪影響を受けて今は回復途中(21.5%)」を合わせた3割弱の企業が悪影響から回復していないと回答した。一方、「あまり影響を受けなかった」が49.4%、「駆け込み需要などで好影響」が5.8%と、5割以上の企業で悪影響を受けていないと回答した。消費税が10%に上がった場合の影響については、「悪影響を長い期間受ける」が16.3%、「悪影響を一時的に受ける」が36.2%となり、5割以上の企業が悪影響を受けると見ている。

地区別にみると、8%に上がった際の影響について、悪影響を受けた企業割合(「今も回復せず」「回復途中」「今は回復」の合計)は瀬戸・尾張旭地区取引先で42.9%、名古屋地区取引先が47.4%となり、名古屋地区取引先の方がより悪影響を受けた結果となった。10%に上がった場合の影響についても、悪影響を見込む企業割合(「長い期間受ける」「一時的に受ける」の合計)は、瀬戸・尾張旭地区取引先の43.4%に比べて名古屋地区取引先が64.2%となり、名古屋地区取引先では6割以上の企業が悪影響を受けると見込んでいる。

全国・愛知県と比較すると、消費税が8%に上がった際の影響について、「悪影響を受けて今も全く回復していない」「悪影響を受けて今は回復途中」の回答割合が当金庫に比べ高くなっており、消費税が10%に上がる場合の影響についても、悪影響を見込む企業が多くなっている。

<陶磁器製造業>

消費税が8%に上がった際の影響について、悪影響があった企業は47.7%となり、「あまり影響を受けなかった」が48.9%、「駆け込み需要などで好影響」が3.4%となった。

消費税が10%に上がった場合の影響については、「悪影響を長い期間受ける」「悪影響を一時的に受ける」を合わせた悪影響を見込む企業が48.9%と高い回答割合になっている一方で、「わからない」と回答した企業も3割に上っている。

景気動向調査結果 (名古屋地区)

平成26年 12月

業種		時期	前期 平成26年 7~9月	当期 平成26年 10~12月	来期見通し 平成27年 1~3月	概況
製 造 業	繊維製品					業況判断D Iは△18.2、前期比 9.1 ポイント悪化となった。 売上数量D Iは△9.1、前期比 9.1 ポイントの改善も、収益D Iは△27.3、前期比 18.2 ポイント悪化となっている。 予想業況判断D Iは△18.2、今期比横這いの見込み。
	機械・部品					業況判断D Iは△5.4、前期比 10.8 ポイント改善となった。 売上額D Iは△2.7、前期比 8.1 ポイントの悪化。売上数量D Iも△8.1、前期比 8.1 ポイントの悪化となっている。但し受注額D Iは 8.1、前期比 2.7 ポイントの改善となっており回復基調がうかがわれる。 予想業況判断D Iは 5.4、今期比 10.8 ポイント改善する見込み。
	紙加工品					業況判断D Iは△26.7、前期比 6.6 ポイント改善となっているが依然低調推移。 受注額D Iは△6.7、前期比 13.3 ポイントの改善。売上額D Iは 0.0、前期比 20.0 ポイントの改善となっている。 予想業況判断D Iは△46.7、今期比 20.0 ポイント悪化する見込み。
卸 売 業	鋼材・伸銅品					業況判断D Iは 0.0、前期比 4.8 ポイント悪化となった。 売上額D I、売上数量D Iはともに 4.8、ともに前期比横這いとなっている。 予想業況判断D Iは△9.5、今期比 9.5 ポイント悪化する見込み。
	建築材料					業況判断D Iは 0.0、前期比 25.0 ポイント改善となった。 売上額D Iは 0.0、前期比 12.5 ポイントの改善。売上数量D Iも 0.0 で前期比 18.8 ポイントの改善となっている。 予想業況判断D Iは△12.5、今期比 12.5 ポイント悪化する見込み。
	家具・文具					業況判断D Iは△22.2、前期比 44.4 ポイントの悪化となった。 売上額D I、売上数量D Iはともに△11.1、前期比はともに 33.3 ポイントの悪化となっている。 予想業況判断D Iは△22.2、今期比横這いの見込み。
建設業						業況判断D Iは 17.9、前期比 3.1 ポイント改善となった。 受注額D Iは 17.9、前期比 6.8 ポイントの改善。売上額D Iは 14.3、前期比 10.6 ポイントの改善となっている。 予想業況判断D Iは 17.9、今期比横這いの見込み。

※この天気図は、本調査を総合的に判断して作成したものです。



バンコク駐在員事務所通信

平成27年1月
バンコク駐在員事務所
所長 稲垣 尚則

2014年のタイの政治・経済動向

2014年はタイにとって大きな節目の年となりました。2013年から続く反政府デモがさらに激化し、2014年に入り非常事態宣言発令、戒厳令発令、そして5月22日には軍部によるクーデターが勃発しました。また、9月には軍政主導の暫定政権が発足し、混乱する政治情勢に振り回された1年でした。2001年のタクシン政権樹立以降、タイでは今回のような政権打倒が3度繰り返されており、いずれも選挙では勝てない反タクシン派による政権打倒デモの発生、続いて司法が政権に打撃を与え、最後に軍隊が政権交代を実現するという形です。

暫定政権では、大きな対立点となっているタクシン派を支持する低所得者層と反タクシン派を支持する都市中間層や富裕層間の所得格差問題の解消、不公平感是正のための相続税・贈与税の導入など、国内改革を断行するための具体的な法改正の検討、実施を進めています。その解決にはまだまだ時間を要します。2015年は暫定政権から民政への移管が予定されており、この移行がスムーズに行われるかどうか、今後のデモ再発のカギを握っています。

経済に目を向けると、去年は政情不安による観光業への影響や家計債務の高まり等による個人消費の低迷、また公共・民間投資が再開されたものの実体経済への波及が遅れ、タイ経済は期待されたような本格的回復に至らなかった年でした。前年同期比マイナス0.5%でスタートした第1四半期GDP成長率はその後も伸び悩み、2014年の通年では1.0%から1%台半ばにとどまると見込まれています。2015年については、アメリカの金融政策（利上げ）の行方、欧州中央銀行の量的金融緩和による世界経済への影響、原油価格の下落、地政学リスクの高まり等世界を取り巻く環境は決して楽観できるものではありません。一方で、暫定政権は、経済重視の姿勢も打ち出しており、コメ・天然ゴム農家や中小企業への支援、インフラ整備促進、産業支援策や景気回復に向けた諸施策を既に展開・着手しており、タイ経済は緩やかに回復していくものと見られています。

2015年は東南アジア諸国連合（ASEAN）の経済統合によって、人口6億人という新しい貿易圏「ASEAN 経済共同体（AEC）」が誕生します。世界の中でアジアはますます注目され、その中でタイは中核国としての機能を発揮していかなければなりません。一刻も早いタイの政治の安定と従来のような高い経済成長への復活、そして市場の活性化が望まれます。